

本年4月、民間のある研究所が発行しているビジネス情報誌に「地球環境対策に積極的に取り組む都道府県はどこか」ということで「地球にやさしい自治体ランキング」なるものが掲載されました。

それによると、滋賀県は総合得点で35.66点（100点満点）を獲得して47都道府県中12位に位置付けられ、ますますの評価でした。しかし、その内容を見ると、5つの評価軸によって評価されている中で、地域の環境保全活動を誘導していくための環境政策への取り組みについては、高い評価がつけられているのですが、県が自ら事業者として環境負荷を低減させていくための行動計画への取り組みについては、全国で41位という極めて低い評価となっています。

日頃、私達（特に行政関係者）は、滋賀県は環境にこだわる環境熱心県だと誇らしげに外に向かって発信しています。しかし、この情報誌の記事に従うと、県は県民をその気にさせる仕掛けづくりは上手であるが、自らの行動については具体的な数値目標を定め、その達成に向け率先した努力をしない県だということになっているのです。

環境こだわり県をいうとき、私達滋賀県人には“びわ湖をダシにすれば”先進的な取り組みをしているのだという思いこみがあるよ

うに思います。しかし、よく考えれば、全国に“びわ湖”とまったく同じ条件の湖はなく、比較のしようがないのです。びわ湖に関する取り組みは、この偉大な湖から限らない恩恵を受けている私達が、当然のこととして実施しなければならないことばかりなのですが、それを先進的な取り組みだと思い違いをしているのではないのでしょうか。

これは“恵まれすぎた不幸”とでもいうべきもので、“びわ湖”へのこだわりが私達滋賀県人の環境問題に対する体質をすいぶん脆くしているように思えるのです。

地球環境問題は21世紀における人類の最重要課題として、生活者一人ひとりのライフスタイルに起因する問題であり、人々の生活に密着した地域での取り組みが重要であります。

そのためにも“恵まれすぎた不幸”に終止符を打ち、“びわ湖をダシ”にしなくても“環境こだわり県”として社会に認知される“滋賀”をめざして率先行動が進展することを願っています。

(※ダシ=自分の利益のために利用する物事・人)

財団のひとりとごと
h i t o r i g o t o

“恵まれすぎた不幸”に終止符を



「ヨシ腐葉土」好評発売中！

当財団では、刈り取ったヨシを有効に活用するため、ヨシの腐葉土を職員の手作りで製造し、販売しています。

ヨシ腐葉土は、琵琶湖のヨシを原料として作ったもので、**通気性、透水性が特に優れている**ため根張りが良くなり、根腐れの心配がありませんので、家庭菜園づくりにも好評です。

お問い合わせ、ご注文は当財団へお願いします。また、**滋賀県種苗生産販売協同組合加盟の種苗店**や**㈱アヤハディオの各店**でも販売していますので、一度お試し下さい。